環境審査顧問会風力部会（オンライン会議）

議事録

1. 日 時：令和6年9月6日（金） 14時～16時32分

2. 出席者

【顧問】

阿部部会長、岩田顧問、河村顧問、近藤顧問、斎藤顧問、佐藤顧問、鈴木顧問、
関島顧問、中村顧問、平口顧問

【経済産業省】

一ノ宮環境審査担当補佐、木全環境審査担当補佐、中村環境審査係長、森江環境審
査係長、植田環境審査係長、山崎環境審査係

3. 議 題：（1）環境影響評価図書の審査について

①日本風力エネルギー株式会社

（仮称）三戸風力発電事業 環境影響評価方法書

方法書、補足説明資料、意見の概要と事業者の見解、青森県知事意見

②J R 東日本エネルギー開発株式会社

（仮称）新白馬風力発電事業 環境影響評価方法書

方法書、補足説明資料、意見の概要と事業者の見解、和歌山県知事意見

③J R 東日本エネルギー開発株式会社

（仮称）栗子山風力発電事業 環境影響評価準備書

準備書、補足説明資料、意見の概要と事業者の見解、山形県知事意見、

福島県知事意見、環境大臣意見

4. 議事概要

（1）開会の辞

（2）環境影響評価図書の審査について

①日本風力エネルギー株式会社 「（仮称）三戸風力発電事業」

方法書、補足説明資料、意見の概要と事業者の見解、青森県知事意見につ
いての質疑応答を行った。

②J R 東日本エネルギー開発株式会社 「（仮称）新白馬風力発電事業」

方法書、補足説明資料、意見の概要と事業者の見解、和歌山県知事意見につ

いての質疑応答を行った。

③ JR東日本エネルギー開発株式会社「（仮称）栗子山風力発電事業」

準備書、補足説明資料、意見の概要と事業者の見解、山形県知事意見、福島県知事意見、環境大臣意見についての質疑応答を行った。

(3) 閉会の辞

5. 質疑応答

(1) 日本風力エネルギー株式会社「(仮称)三戸風力発電事業」

<方法書、補足説明資料、意見の概要と事業者の見解、青森県知事意見の概要説明>

○顧問 それでは1件目、(仮称)三戸風力発電事業、環境影響評価方法書の審査になります。方法書、補足説明資料、意見の概要と事業者の見解、知事意見、どこからでも構いませんので、御質問、御意見ございましたら挙手ボタンを押してお知らせください。

動物関係の先生、お願いいたします。

○顧問 私の方から動物等生態系に関してコメント、それから質問させていただきます。細かいところなのですが、まず方法書の322ページ、先生の方からも補足説明資料として挙がっていたICレコーダーによる録音調査の件ですけれども、準備書に記載されるということだったのですが、この調査に関して多分対象になっているのはフクロウ類だと思いますが、対象とするその鳥類に対して、コールバック法で、ただ録音するだけではなくて、対象鳥類の発声音です、そういったものを流しながらコールバックで確認していただきたいと、その方が確実に押さえられるので、夜行性の鳥類に関してそういう調査方法をぜひ導入していただきたいと思います。

次ってよろしいでしょうか。これはコメントなので。

○顧問 はい、次お願いいたします。

○顧問 2点目は324ページ目になります。これもコメントなのですが、渡り鳥の移動経路に関しての調査に関して、事業実施区域周辺をいつ頃通過するのか、ピークがいつ頃なのかということを実地の野鳥観察者からヒアリングをしっかりと行っていただいて、渡りのピークを外さないようにぜひ努めていただきたいというコメントになります。これもコメントなので。

次、3点目いきます。341ページですけれども、希少猛禽類の調査位置ということで、定点配置が対象事業実施区域なり、それから周辺において位置情報が示されています。この中で1点伝えたいことは、まず可視領域の情報が提示されていないので、どの程度この対象事業実施区域周辺が捕捉できているのかといったところを判断できるような資料を併せて出していただきたいということ。

もう一点は、この対象事業実施区域を中心に、北側、それから北東側の方に定点が一切ないので、その定点が配置されていないことによって見落としが出てくるのではないかと含めて、それから、ここにあって定点配置していないところがもし事業者さんの

方から説明できるのであればお答えいただきたいということで、これはちょっと回答いただいた方がいいかもしれません。いかがでしょうか。

○事業者 日本気象協会です。

区域の北側と北東側の定点なのですけれども、こちら、方法書を作成したときに、視野が取れる地点というのがなかなか見つからなかったところですが、現地で確認しまして、適宜、北側と北東側を網羅できるような形で定点配置して調査を実施できればと思っております。

○顧問 分かりました。ぜひそのような方向で、対象事業実施区域を中心としたその周辺が見渡せるように調査を実施していただきたいと思います。

次の342ページですね。これは渡り鳥の移動経路の調査なのですけれども、常々伝えているところですが、渡り鳥はかなり広い範囲を利用してくるので、各地の事業に対して渡り鳥が通過しないということは多分ないと思うのですね。問題はやはり主要なフライウェイから外れているかどうかといったところがすごい重要で、主要なフライウェイ上に鳥衝突が起きるような事業を展開してしまうと、やはり種とか個体群レベルで大きな影響を与えてしまうので、主要なフライウェイがどこにあるのかといったところを把握する必要性が私はあると考えています。

そういった意味では、今回の渡り鳥に関しての定点配置に関しては、対象事業実施区域の中ですね、主に定点配置を取っていて、周辺2か所なのですけれども、できれば地元の野鳥観察者が渡り鳥の観察をしているポイントがあるのであれば、そういったところのポイントのデータも借りるとかしながら、その主要なフライウェイの把握と、そういったところの比較データを含めてフライウェイはどこにあるのか、この対象事業実施区域がどのような位置関係にあるのかといったところが判断できるようなデータをぜひ準備書で出していただきたいと考えます。この点いかがでしょうか。

○事業者 日本気象協会です。

御意見いただきましてありがとうございます。いただいた意見を参考にしながら、引き続き調査計画等を検討させていただければと思います。

○顧問 よろしくお願ひします。次は349ページです。こちらの方は動物の影響予測及び評価フローということで、鳥類に関しての年間予測衝突数の算出例ということでイメージ図が出ています。これも常々言っているところなのですけれども、各メッシュの衝突確率を算出する際に、ベースとなっているデータは定点配置に基づいて得られた飛翔軌跡な

のですね。ところが、その定点配置による飛翔軌跡のデータというのが均等な調査努力によって得られているかという、すごく偏りがあって、数倍の観察時間の違いがあったりするケースがあります。そういった意味からすると、そういうバイアスがかかってしまう。事業者さんの方では、それを単位時間当たりの観察時間ということで補正はかけてはいるのですけれども、終日見ているのと、例えばある偏った時間だけ、午前中だとか昼過ぎだとか、そういう形で時間帯が当然違ってくれば、単位時間当たりで幾ら補正したとしても、それはやはり比較するのに難しいと考えるので、そういった観察時間を均等になるようにそろえた上で衝突確率の計算をしていただきたいと考える。よろしいでしょうか。これもコメントいただきたいと思います。

○事業者 御意見いただきましてありがとうございます。いただいたもので、なるべく調査時間が均等になるような形で今後調査を実施していきまして、なるべくそういった偏りがないような形で衝突確率の算出に努めたいと思います。

○顧問 次は359ページです。生態系の方ですけれども、生態系の評価において、クマタカを上位性、それから典型性をカラ類ということで選定しているのですけれども、クマタカの餌種調査のところで挙げているのがヤマドリ、ヘビ類、ノウサギという動物で、これら、食べないわけではないのですけれども、これは主に出てくるのはイヌワシの主要な餌メニューなのですね。クマタカはもっと幅広い餌メニューを取っているわけですが、この3つの動物種に限定した理由というのをちょっと説明いただきたいのですが。

○事業者 日本気象協会です。

こちらに関しましては、主に文献等からヤマドリ、ヘビ類ということで、今回、方法書の中には記載させていただいているのですけれども、今後の現地の状況等踏まえまして、クマタカの餌資源に関しましては、これに限らず、現地の状況に合わせて把握していければと考えております。

○顧問 そうですね、ぜひ。前の部会長のときは、その根拠ですね。例えば巢内のカメラの観察、何らかのこの地域のクマタカの観察データに基づいて餌メニューを把握した上でその調査に入っていたかというような指摘も記憶にあるのですけれども、そういう形で、この餌種の調査に関して、餌メニューに関してはそれなりの根拠を持って選定していただきたいというのがお願いになります。ぜひよろしくお願いします。

最後になるのですけれども、知事意見の方でも、累積的な影響評価ですね。この対象事業実施区域の周辺にも、計画中であったり、既設の風車があります。累積的な影響の評価

に関して、土地又は工作物の存在及び供用に関して累積的な影響を評価するという形で丸を示されています。私も探したのですけれども、方法書のどこにそれが記載されているのかわかりませんでしたのですけれども、それを示していただくのは可能でしょうか。私の見落としもあるので、ぜひちょっと紹介いただきたいのですが。

○事業者 ページの方は、表6.1-8で、何ページでしょうか。

○顧問 私の聞きたいのは、累積的な影響をどういった形で評価するのかという評価方法ですね。それがどこに書かれているのか、それを知りたいのです。今、口頭でもいいのですけれども、たしか3つの事業がこの周辺にあるのですが、本事業含めたこの周辺の3つの累積的な影響というのを具体的にどういう方法で評価しようと考えられているのか説明いただきたいのですが。そのアイデアをお示しいただきたい。解析方法に関して。

○事業者 日本気象協会です。

累積的な影響ですけれども、考えているところは、まず渡り鳥ですとか猛禽とかそういう鳥類に関しましては、特に一番近いのが新郷の風力発電機、今回の区域の北西側にあるところですが、そういったところも含めた形で調査地点を配置しまして、渡り鳥ですとか、あとは鳥類とかの飛翔軌跡というのは把握できればと考えております。また、近隣の風力発電事業に関して事後調査等を実施されている場合には、そういったところのデータの提供等を御依頼させていただいて、そういったところと協議しながら累積的な影響というのもまた把握できるような形で進められればと考えております。

○顧問 私が聞きたかったのは、そのような周辺の事業者の協力を仰ぐというのはもちろんなのですけれども、どういう結果が準備書に累積的な影響評価という形で出てくるのかということ、今のこの方法書の段階で教えていただきたいということです。実際、準備書が出てきたときに、累積的な影響の評価になっていないよねというケースもこれまで何回かあったので、今の段階、これは方法書の審査なので、累積的な影響、どのような形で評価しようとしているのか、その具体的な考え方ですね。データは周辺から得る。それをどういう形で見たとときにその累積的な影響があるとかないとか判断できるのかということのアイデアを教えていただきたいということです。

○事業者 私から一言なのですけれども、累積的データはもちろん取得させていただくのですが、先方のほかの会社様が所有されているデータの種類によって、その累積的データの結果も変わってくると思いますので、交渉した結果、どのデータを累積的評価として出せるかというのが、すみません、それもまだちょっと、詳細、どのデータで出せるかと

というのが分からない状況です。

○顧問 違うのですよ。ほかの他事業者に頼むときに、こういうデータが欲しいという依頼が多分あるはずなのです。何でもいいから出してくれなくて。このようになってくると、今回の事業に関して累積的な影響を評価しようとする担当者がどういうデータに基づいて累積的な影響を評価するというのを今の段階で考えていなければ頼みようがないのです。だから、私が聞きたいことは、出てきたことで累積的な影響を評価しますでなくて、調査解析する側は、どういうデータを求めようとしているのか、そしてどのような解析をしようとしているのかというのは、今の段階で決まっていなければ準備書の段階で累積的な影響なんて出てくるわけないのです。私はだから、今まで期待しているような累積的な影響評価の結果は見たことがない。そのアイデアを教えてくださいということなんです。

○事業者 日本気象協会です。

聞きたいデータとしては、動植物関連ですと、渡り鳥のデータとか、あとはコウモリといったものがいただければなと思っております。そちらの結果と、今後実施していく現地調査の結果と併せて累積的な影響予測というのもできればと思いますが、例えばですけども、こちらからの質問で申し訳ないのですけれども、動物関係の先生から何か累積的なこういった形で予測評価すればいいのではないかとといったアイデアみたいなものがもしございましたら、そちらをお教えいただきたいなと思っておりますけれども。

○顧問 私なりにアイデアはあるのですけれども、これは審査している立場なので、この場で私のアイデアを紹介するのが適切かどうか分からないので、まず今私が聞いたかったのは、この方法書の中でコンサルさんがどういう形で累積的な影響を評価しようとしているのかという、その考え方を教えてくださいということなので、今の段階でまだ見出せていないのであれば、私は累積的な影響の評価って非常に難しいと思うのですよね。それをどういう形で評価しようとしているのかというのは、ある意味、非常にそれぞれの事業さんに聞きたいところですので、今回の評価に関しては、どういう形でアプローチしようとしているのかといったところのアイデアをお示しいただきたいということ。もし考えつかないようであれば、また今回の審査会とは別のところで連絡いただければ、そのような意見交換はまたできると思いますが、そういったところで、現時点でのお考えを御紹介いただきたいということで。難しいようであれば、この質問はここで終わりにしますが。

○事業者　　ちょっと検討させていただきますでしょうか。

○顧問　　では私の質問は以上になります。

○顧問　　動物関係の先生、ありがとうございます。ほかに御質問、御意見ございましたでしょうか。

魚類関係の先生、お願いいたします。

○顧問　　私、補足説明資料の魚類・底生動物の調査地点のことを質問して、それに対するお答えをいただいているのですが、そこにお答えの内容にある、川底がコンクリート張りになっていたり、あるいは人が入れないというところを含めて、その調査点の設定根拠を333ページの表の中にお書きいただければいいかなと思いました。いかがでしょうか。

例えば1から8まで調査点が設定されていますが、それぞれの調査点が一体何を代表する場所で、そこで調査すれば、その川の上流部分の動物相を把握できるみたいな根拠が必要だと思うので、そういう説明をお書きいただければ、私のような質問をしなくてもいいかなと思いました。いかがでしょうか。

○事業者　　日本気象協会です。

御意見いただきましてありがとうございます。準備書の際にはそういったところも書き込むような形で整理させていただければと思います。あと、方法書なのですけれども、方法書時点での記載に関しましては、今いただいた御意見を参考にしまして検討させていただければと思います。

○顧問　　ありがとうございます。よろしく申し上げます。以上です。

○顧問　　ありがとうございます。ほかに御質問、御意見ございませんでしょうか。

では、手が挙がっていないようですので、私の方から何点か質問させていただきます。

まず、知事意見、開いていただけますでしょうか。知事意見を少し進めていただいて、もう少し下ですね。

鳥類の調査で、ICレコーダーについて、先ほど動物関係の先生からも御質問あったかと思いますが、私が補足説明資料の方で事前に質問させていただいて、一応ミゾゴイを想定しているので、4月下旬から5月上旬を想定して行うということだったのですが、知事意見ではこのような意見も出ておりますし、もう少し遅い時期にももう一回ぐらい設定した方がいいのではないかと思うのですが、その辺りはいかがでしょうか。

○事業者　　御意見いただきましてありがとうございます。検討させていただきます。

○顧問　　よろしくお願いいたします。それから植生の方で、自然度の高いエリアが存在

して、ここに対する影響を適切に評価して、エリアを除外することと知事意見が出ておりますが、これに関連して、方法書の354ページ開いていただけますでしょうか。

図面をもう少し拡大していただくと分かりやすいと思いますが、この一番南側の飛び出したところですね。ここが自然林のあるところだと思います。番号で言うと2という凡例番号が書いてあるところだと思いますが、この植生調査地点の配置については、2-1と20-3というように風車の設置位置を適切に選んでいただいているので、ここはきちんと調査していただきたいのですけれども、ここの2番の自然林の広がりかどの程度かというのをきちんと把握するという意味では、もう一つ、ちょうど2という番号がある辺りに、中心付近かもう少しへりの辺りかで1点ぐらい、自然林のところの調査地点があった方がいいのではないかと思ったのですけれども、その辺りいかがでしょうか。

○事業者 御意見いただきましてありがとうございます。今後の調査の中で、植生の分布状況と、あとそれに伴う植生自然度の分布状況、そういったところを把握していくのは非常に重要と考えておりますので、方法書のところに28地点という形でお示しさせていただいているのですけれども、現地の状況に合わせながら適宜地点等追加しながら、より詳細な植生の分布状況を把握していければと考えております。

○顧問 よろしくお願ひします。特に自然林の部分は、できれば空中写真とか植生調査、植生図以外の情報もいろいろ出していただくと分かりやすく説得力を持って示せると思いますので、その辺りも準備書に向けて御検討いただければと思います。

○事業者 ありがとうございます。

○顧問 あと1点確認なのですけれども、先ほど動物関係の先生から御質問のあった猛禽類と渡り鳥のところの可視領域図については今回作成されていないのでしょうか。どこかに掲載されていますか。

○事業者 今回、方法書の中にはお示ししていないところになります。

○顧問 そうですか。私、何度か、ほかの案件で質問させていただいて、気象協会さん、後ろの資料編の方に入れていただいていることがままありましたので、ここのところ、その質問出していなかったのですけれども、やはり方法書の調査地点の妥当性を見るためには可視領域図あった方がいいと思いますので、それは方法書の本体の方でも、資料編、どちらでも構いませんので、今後作成していただくようお願いいたします。

○事業者 承知いたしました。

○顧問 あと、これは事務局の方にもお願いなのですが、方法書のチェックリストの段

階で可視領域作成されているかどうかというのをチェックできるようにしておいていただけますか。

○経済産業省 事務局です。承知しました。可視領域図をセットしていただくという形にしたいと思います。ありがとうございます。

○顧問 よろしくお願いいいたします。毎回同じ質問をするのも繁雑になりますので、そのように対処していただければと思います。ほかに御質問、御意見ございませんでしょうか。

それでは、一通り御意見いただいたと思いますので、本件の審査はこれにて終了したいと思います。事務局にお返しいたします。

○経済産業省 1件目の審査、先生方ありがとうございました。本件に関しまして、動累積的な評価をするということは方法書にも書いてありますけれども、その考え方は準備書に向かうに当たり、動物関係の先生をはじめとした専門家の方々の助言を踏まえて適切な累積的な評価の調査方法を検討していただければと思います。

それと、魚類に関して、準備書にそれぞれの魚類の調査地点の選定根拠を書いていただければと思います。また、鳥類に関しましては、適切な調査時期の設定について先生から御助言がありました。更に植生に関して、自然林の自然度等適切な調査地点、選定が大事だということですので、その辺も検討に加えていただければと思います。

最後に、事務局として、可視領域の件につきまして、チェックリストの変更等について検討していきたいと思います。

以上、御助言等幾つかいただきましたけれども、項目を変えるような意見はなかったもので、進めていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

○顧問 はい、結構です。

○経済産業省 ありがとうございます。それでは、1件目の三戸風力発電事業の審査を終了したいと思います。事業者さん、どうもありがとうございました。御退席いただいて結構でございます。

(2) JR東日本エネルギー開発株式会社「(仮称)新白馬風力発電事業」

<方法書、補足説明資料、意見の概要と事業者の見解、和歌山県知事意見の概要説明>

○顧問 それでは2件目ですね。(仮称)新白馬風力発電事業、環境影響評価方法書の

審査に入りたいと思います。方法書本体、補足説明資料、意見の概要と事業者の見解、知事意見、どこからでも構いませんので、御質問、御意見ございましたら、挙手ボタンを押してお知らせください。

動物関係の先生、お願いいたします。

○顧問 最初にちょっと確認したいことがありまして、方法書の3ページ目ですが、事業者さんの方で答えられないようであれば控えていただいても結構ですけれども、これから私が質問する内容はこれに多分みなひもづいているので、結構重要な部分ですけれども、今回の事業というのは、既にもうこの場所で稼働中の白馬ウインドファームというのがあると。その事業を更新・継承ではなくて、新規事業として風力発電所を設置すると書かれています。その結果、アセスのフレームが、いわゆる新規事業としてのフレームワークになっているのですね。それに対して私自身は、コメント、質問の最後に総括して伝えたいと思うのですけれども、まず聞きたいのは、なぜこれ、リブレースではなくて新規事業としたのでしょうかという質問です。

○事業者 お答えさせていただきます。今回、新規事業として、事業者の方、JR東日本という形で、既設の事業者と違うところと、あと出力に関しても、現状、白馬ウインドファームというのは3万kWなのですが、今回計画の新白馬風力発電事業については6万kWという形で、全くの新規という形で私ども考えまして、今回計画をさせていただいている次第でございます。

○顧問 分かりました。一番知りたいのは、この今の稼働中の白馬ウインドファームがどのような配置になっていて、風車がどういう配置になっていて、今回の対象事業実施区域でどういう計画になっているのかという、その稼働中の事業との関係が全然分からないのですね。要は、白馬ウインドファームと重なっているのですか、事業地が。その辺がちょっと見えてこなかったのですけれども。

○事業者 非公開版の資料の方に今の現状の白馬ウインドファームの配置と今回の事業計画を記載させていただいていまして、非公開資料の5ページの方にあります。

黄色い丸ですね、オレンジの丸についてが、今、白馬ウインドファームの既設の風車が建っている位置でございます。こちら、20基でございます。三角の方が今回計画している新白馬風力発電事業で、現状の考えている風車の予定位置という形でございます。

○顧問 分かりました。私のこれからの質問はこれに関してになってくるので、どうもありがとうございます。では次の質問に入らせていただきます。

次は、方法書の133ページ目に、白馬ウインドファームにおける実態の把握ということで、（３）コウモリ類及び鳥類の衝突の状況、（４）に猛禽類の状況ということで示されています。コウモリ及び鳥類の衝突の状況に関しては、どちらも死骸等が確認されています。これに関してもどのような種類がどれぐらい死亡しているのかという情報はこの方法書には書いていない。でも、他事業者だからといって無関係ではなくて、この現地においてどのようなことが起きているかといったところはこの方法書において絶対必要なのです。なので、この記載だけでとどめられたら非常に私は困ってしまって、現状でこの白馬ウインドファームで何が起きているかといったところは、方法書で絶対記載すべきです。猛禽類の状況も、今の稼働中の事業において、事後モニタリングにおいてどのようなことが起きているかということがまずあってしかるべきなのですね。それを踏まえた上で、今回の次の白馬の事業に関してのアセスというものが組み立てられていくと考えます。なので、事業者が代わった新しい事業ではあるのですけれども、これはある意味、リプレースと同じだと考えてもらっていいと思います。そういった意味では、一番最後にまた繰り返しのなってしまうのが伝えないのは、環境アセスの考え方が基本的に間違っていると思います。方法書の考え方が。

これはお願いなので、ぜひ準備書の段階では、この（３）と（４）の情報は出していきたいというお願いです。コメントなので、よろしいですかね、次にいって。

○顧問 進めてください。

○顧問 次は315ページです。これも今お伝えしたと同じですけれども、環境要素、動物のところでの評価結果ということで、（b）のところに「注目すべき生息地の分布状況」ということで、中段からちょっと下のところですね。第1パラグラフの一番最後のところに、「事業の実施による施設の存在及び施設の稼働による影響が生じる可能性がある」と予測した」と、あたかも新しい事業であるかのような記載になっているのですけれども、ここでは既に稼働中の事業があって、死亡も起きている。そういったところで、それを踏まえた上での評価結果が必要であって、そういったものを完全に無視してこのような記載になってくるといえるのは、基本的に私はおかしいというのがコメントです。これもコメントなので次に進ませていただきます。

最後に事業者さんから私のコメントに対して回答いただければいいと思いますので、このコメントに関しては回答いただかなくて結構です。

次は319ページ目ですね。配慮書に対する経産大臣の意見になります。（２）で「累積

的な影響」と書かれています。最近しばしば、特定の場所に事業を集中する傾向があつて、大臣意見、それから知事意見も、この累積的な影響をどのように評価しなさいというコメントが入ってきます。どのように評価しようとしているのかということをもまず方法書で明示してください。累積的な影響を評価しますということだけだとこの評価方法が分からないので、これをどのように評価するかといったところをしっかりと記載してくださいというお願いになります。

累積的な影響に関しては続いてどんどん関連してあるのでまた続けさせていただきます。

336ページに、「累積的な影響の予測対象とする稼働中及び計画中の風力発電事業」という項目があります。その第一パラグラフのところに、累積的影響を評価するに当たって対象にしたのは、「本事業に近接する稼働中の風力発電事業及び建設中の風力発電事業を対象とする」ということで、数ある風力事業のうち近接したところに限定しているのですね。でも、それはすごくおかしくて、要は、環境としては、どんどんこの地域に風車が建っていくことに対して総体として判断すべきであつて、対象事業、事業者にとっては特定の自分たちの事業の周辺だけと思うかもしれないですけども、環境に関してはその地域に全て風力、ウインドファームができるわけなので、その総体として累積的影響を考えるという視点に立っていただきたいので、地域の5か所の事業に関して対象にしていますけれども、全てを対象にしていきたいというお願いです。

また、累積的な影響に関してですけども、341ページ目ですね。「累積的影響に係る環境影響評価項目として選定する理由又は非選定とする理由」としています。この動物のところで、影響要因の区分として地形改変及び施設の存在に関しては選定する、施設の稼働に関しては選定しないという形になっているのですね。なぜ地形改変及び施設の存在に関しては選定していて、施設の稼働に関して×にしているかというのは、私は全然分からないですね。

むしろ施設の稼働によってその累積的な影響がどのような形で影響するのかということの評価するのかが適切であつて、当然、地形改変及び施設の存在もそうですけれども、同じように、もしくはそれ以上に施設の稼働に関して評価すべきなのではないかと私は思うのですけれども、これを前者、地形改変及び施設の存在を選定にして、施設の稼働を×にした理由を教えてください。これはちょっと質問なので説明していただきたいのですが、私は、理由に関しては合理的な説明になっていないと判断しました。

○事業者 御質問ありがとうございます。最後の項目の選定のところになりますけれども

も、累積的影響、鳥類に関して、施設の稼働は非選定にして、地形改変及び施設の存在を◎にした理由としましては、累積的影響の対象とする近隣の事業との影響ということで、まず移動阻害の影響といったところが考えられましたので、それについては施設の存在とこのところの項目に当たるのかなと考えております。

施設の稼働の方になりますと、近隣の事業の方も稼働はしているのですけれども、バードストライク・バットストライクといったところの影響としてどのような累積的な影響が考えられるのかという知見がないかなと理解しておりましたので、また白馬ウインドファームの撤去後に設置する事業になりますので、その共存はないということで、施設の稼働の方は非選定としております。

○顧問 今の説明でも私は理解できなくて、そもそも、これ、切り離せないのです。累積的影響でやはり問題になってくるのは、この存在もそうなのですが、それが稼働しているからであって、それに対して、例えば回避するにしても回避できなくなる、供用中の別の事業者のウインドファームに当たってしまうとか、また生息地の喪失が起きてしまうとか、そういうことが起き得るから、それは何で起きるかといったら、施設が稼働しているからなのです。そういったところを置いておいて、それは存在だからとか。これはある意味、私は切り離せないで、どちらかが◎で、どちらかが×だとかいうことではなくて、両方対象にしながら、建設されて、そしてそれを供用することによってどのように応答するのかということを見ていくべきだと思いますので、両方ともこれは選定にすべきだと私は思います。よろしいでしょうか。

○事業者 別の事業者さんの事業が並んでいる状況なので、どこまでできるかというのは、少し御意見を踏まえて検討させていただきたいと思います。

○顧問 あと、こういうことはどの事業者でも同じような立場に置かれているので、これは風力発電協会さんになるのかもしれないですけれども、それぞれの事業者で協力しながら、この累積的な影響をどのように評価するかということを考えていくべきだと思うのです。こういうことがアセスの審査の中で求められたから、でも、それは他事業者さんがどのように反応するか分からないから、できるできないとかではなくて、この風力事業者さんの方で、累積的な影響をどう評価するのか、そしてそれはそれぞれの立場である事業者が同じように直面する問題なので、相互に情報共有しながら、どういう形でこの問題に対峙していこうということを早急に私は考えるべきだと思っていて、他事業者さんがデータ出さないからできないとかいうことは理由にならないと思うのです。これは知事意

見とか大臣意見とかそういう形で求められていることなので、できるできないではなくて、やらなきゃいけない、マストだと私は思いますので、ぜひ考えていただきたいというお願いです。

次は388ページになります。これは調査地域及び地点、希少猛禽類の情報で、定点が配置されています。可視領域との関係を見ているのですけれども、私もこれはナンセンスだと思っていて、そういう形で可視領域との関係の中で定点配置を考えるというのは非常に重要なのですけれども、既に白馬ウインドファームがあって、どこに希少猛禽類がテリトリーを構えているとか、そういう情報は既にあるはずだと思うのですね。また、さらに言ってしまうと、白馬ウインドファームのアセスのときの事前データ、そして供用の事後モニタリングの結果によってどのように反応しているかというのは当然あるはずなのです。やっていなければおかしい。そういうことを前提に定点配置が考えられるべきであって、こういう形で、あたかも初めての新規事業であるかのような計画を持ってくるといのは、私はこの方法書においては不適切だと考えます。

これもコメントだからいいです。最後にちょっと総括して言うので、それに対して回答いただければと思いますので、ちょっとまた言います。

次、393ページ、渡り鳥の調査地域及び地点が示されています。有識者だか地域の野鳥観察者の方だったかのコメントにあったのですけれども、262ページですかね、そこで、日ノ御崎といったところで、地元の方が渡り鳥を観察されていると。ぜひそこを含めていただきたい。私がこの渡り鳥の定点地点を見たときに、日ノ御崎というのはどこなのか分からないのですけれども、岬というからには海岸線に沿ったところにあるのだろうと思いますが、この定点配置だと、岬がないのですね。この日ノ御崎というのはこの定点ポイントに入っているのでしょうかという質問。これも回答いただきたいのですが。

○事業者 日ノ御崎の場所は、393ページの図でいきますと一番南西のMB. 7の地点、これが西山という山頂付近なのですが、この稜線の西側の図角の外側になります。

○顧問 分かりました。それも入っているのであればすごくいい結果だと思いますが、要は、対象事業含めて地域の地元観察者が渡り鳥の観察しやすい場所という形で取っているところというのは、ある意味、主要なフライウェイになっている可能性もあって、そういったところの関係の中でこの対象事業実施区域のほかのMB. 1から5、その辺りの飛翔数が見えてくると、どこが主要なフライウェイでとか、対象事業実施区域はどれぐらい飛んでくるのかというところが見えてくるので、ぜひこの方向で進めていただきたいとい

うことで、了解しました。

次は431ページです。生態系で上位性をクマタカにという形で捉えて、解析手法が書かれています。こういう形でかなり具体的に解析方法を、フロー図を描いていただくと非常に分かりやすいのでこれはこれでいいと思います。問題は、この真ん中の統計モデルの作成のところで、繰り返しになるのですが、本事業はある意味リプレースと同じだと考えていいと思います。事業者が代わったから違うではなくて、やっていることはリプレースなのです。リプレースと同等なので、既設の風車の影響を考慮した上で予測評価をする必要があると私は思うのです。要は、一回風車が回っている、供用していることによって、地域の動物だったり植物だったり生態系がそれで反応しているわけです。今回の方法書を読んだときに、それが全然加味されてこない。私はそれは問題だと思っていて、この統計モデルの作成の中では、あたかも新規の事業であるかのように、評価しましたでなくて、既設の風車の影響をちゃんと組み込んだ形のモデルを組まなければだめですよということをコメントさせていただきます。よろしいですかね。これもちょっと確認取りたいのですけれども。

○事業者 準備書の方ではその辺りも少し書き込めるようにしたいと思います。

○顧問 以上、私の方からのコメント、そういったところですが、最後にそれを総括して言うと、今回はとにかくリプレースと同等という事業だと私は考えますので、調査設計とか調査解析のフレームワークというのが当然そのリプレースに合わせた形で、既に環境が応答している、それを前提にした形で、その中で新しい事業に対して評価するというような考え方が必要だと思うのです。ある意味、私は、環境影響はかなり低減されているのではないかと。そこに対して環境が反応しているので。

でも、方法書のフレームとしては、やはり事前の建設されている風車、それがちゃんと反映された形で調査される、解析されるのだという設計になっていないと私はいけないと思うのです。それが全然この方法書から見えてこなかったもので、そういう意味では、方法書の体裁としては、これは大学で言えば不可ですね。やり直しという形で私は伝えたいのですけれども、この審査手続はそういうことがないでしょうから、準備書の段階では、そういった私が伝えなかったところの情報をぜひ、別の事業者さんだからといって出せないのではなくて、そこに建てるわけなので、小動物の死骸数の調査結果であったり、それから、事後モニタリングの結果であったり、そういったところがちゃんとそこに紹介された上でどのような結果になったのかといった形で分かるような準備書を用意していただき

たいというお願いになります。以上です。

○顧問 動物関係の先生、ありがとうございました。既設の風車がありますので、できるだけ利用できるデータは利用させていただいて、あとは分析のときに、既設の風車の影響も適切に評価してくださいということです。その辺りは十分検討して進めていただければと思います。よろしくお願ひします。ほかに御質問、御意見ございませんでしょうか。

魚類関係の先生、お願ひします。

○顧問 補足説明資料の、魚類・底生動物の調査地点についての質問です。水質調査地点となっている14番、16番の地点、魚類・底生動物の調査点がないのはなぜかという質問を差し上げたのですが、そのお答えが、14、16は住民の方の沢水利用が想定されたために調査地点としては設定したとなっています。16番の方は確かに、河川の図と併せて見ると、沢の表記が見えるのですが、14番には何も見当たらないですね。ここにも沢があるということでしょうか。沢があるとすれば、そのことが分かるように書き込んでいただきたいと思ひます。それから、普通はどっちかというとな魚類の調査点の方が多くて、荒天時にも調査しなければいけない水質の調査点は少なめに設定されているのですが、もしこの14、16の地点に魚類や底生動物が生息するような沢があるのであればひここでも魚類・底生動物の調査を行ってほしいと思ひますが、いかがでしょうか。状況分からないので教えていただきたいのですけれども。

○事業者 現地の状況を確認して、もしそういった生息の可能性のあるような場合は追加の調査も検討していきたいと思ひております。

○顧問 このWT-14という水質調査地点には沢があるのですか。

○事業者 現地の方では沢を確認してございます。

○顧問 そこに底生動物いるかどうか分からないということなのですか。そういう沢ではないということでしょうかね。

○事業者 そうですね。もう一回現地の方、確認してみたいと思ひうのですけれども、現状はそのようなものではないと判断はしてございます。

○顧問 いずれにしても、その地点に調査点を設定しない理由をしっかりと明確にしたいと思ひます。水質の調査点、魚類・底生動物の調査点、それぞれ設定の根拠が分かるような説明の仕方をお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○事業者 かしこまりました。

○顧問 以上です。

○顧問 ありがとうございます。ほかに御質問、御意見ございませんでしょうか。

大気質関係の先生、お願いいたします。

○顧問 今動いている白馬ウインドファームというところでは、2018年に台風によってブレードの損傷事故を起こしていると思います。今回新しく風車を設置する場合はいろいろ経産省の方で事故の評価とかされていると思いますが、一応設計上の耐風速を超えたのではないかということも推測されています。これらの風速に耐えられるような対策や機種を選定するのでしょうか。もしそうだとした場合に、従来の耐風速設計を超えるような風車というのは余りないと思いますが、何か特別に騒音等で考慮しなければいけない点が出てくるのでしょうか。ちょっと確認させてください。以上です。

○事業者 回答させていただきます。2018年のブレードの折損事故につきましては、風車の耐風速を超えたため折れておりますが、新しい風車につきましては、そういった事象も含めてそれ以上の耐風強度を持つ風車を選定しようと考えております。騒音につきましても、当時の風車はあまり騒音対策というのはなされていなかったのですが、最新のものは騒音対策も盛り込んだソフトも装備したものが多くございますので、そういったものを適切に選定していきたいと思っております。

○顧問 どうもありがとうございます。私の方からは以上です。

○顧問 ありがとうございます。ほかに御質問、御意見ございませんでしょうか。

では、ちょっと細かい点ですけれども、私の方で少しだけ確認させていただきますか。

方法書の388ページをまず開いてください。希少猛禽類の調査点ですけれども、これと言いますと、S T. 4というところになりますかね。それから、もう少し下げてください、渡り鳥の方が393ですかね。こちらも同じ地点ですが、番号がM B. 3ですかね。ここは調査定点の記号が点ではなくて、何かルートのようになっているのですが、この調査定点での調査というのはどういう形で行われるのでしょうか。

○事業者 御質問ありがとうございます。この地点が、ちょうど川の堤防がありまして、端から端まで歩いていけるような場所になっていて、移動するとその手前の樹木とかの遮蔽とかをちょうどよけられて、既設風車20基ございますけれども、これが一応全部見えるような地点になっておりますので、点というよりは、適宜移動しながら見られる場所ということで、線で表示させていただいております。

○顧問 定点調査だと普通は1か所にとどまってやると思うのですが、この線の長さ、1kmないか、500から700ぐらい、かなり長い距離あると思いますが、その中を歩き回るよ

うなイメージですか。それとも、その中で何点か移動定点のような形で調査するような形でしょうか。

○事業者　そうですね。基本的には同じ1か所にとどまるようなイメージでおりまして、例えば川の左岸側の方で猛禽類が出た場合にはそこが見えやすい場所に移動するのですとか、あとは既設の事業地の方向に渡り鳥なり猛禽類というのが確認されれば、それらが見やすい場所の方に移動するというような形で、特定の場所に一応いることはいるのですけれども、出現状況に応じてちょっと視点を変えていくというような動き方になるイメージです。

○顧問　分かりました。ではトランシーバか何かで連絡を取り合って、飛翔軌跡がこちらに向かってきた場合は見やすい場所に移動すると、そういうイメージですかね。

○事業者　そうですね。ほかの地点からの中継もありますけれども、この堤防の地点から見える範囲で確認したものが少し見えづらければ少し移動するというような、そんなイメージでおります。

○顧問　分かりました。ありがとうございます。

私からは以上ですけれども、ほかに御質問、御意見ございませんでしょうか。

特にお手が挙がっていないようですので、本件の審査はこれにて終了したいと思います。事務局の方にお返しいたします。

○経済産業省　御審議ありがとうございました。本件、既設の風車もあって、事業者が代わるということですがけれども、リプレースと同等とみなす考え方ということで、もともと運転されていた事業者、そしてコンサル同士、連携して情報共有いただければと思います。特に既設の運転中きにコウモリや鳥類の影響があったわけですから、そこを十分踏まえ、リプレースと同じだということで計画の検討を進めていただければと思います。

累積的な調査、影響評価に関して、現状の方法書では、施設の稼働、造成等の施工は項目を選ばれていない状況であり、ここは評価項目にすべきではないかという御助言をいただいております。

それと、水質の調査点、魚類・底生動物の調査点は適切な地点を選定すること、また、風車の選定にあたっては、耐風速を考慮することと同時に環境対策にも考慮した機種を選定し、それに伴う評価をしてください。

これから準備書に向けて勧告を出していくのですけれども、施設の稼働、造成等の施工や一時的な影響の部分について、環境への影響を改めて検討し、準備書に向けてその環境影響評価項目を選定すべきかどうかを検討していただきたいと思い、そういった内容の勧

告を今回の方法書の段階で入れたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

○顧問 はい、お願いいたします。それで結構です。

○経済産業省 分かりました。ありがとうございます。

では、事業者さん、その点よろしいでしょうか。

○事業者 かしこまりました。検討してまいります。ありがとうございます。

○経済産業省 よろしく申し上げます。では、2件目の審査を終了したいと思います。
事業者さん、どうもありがとうございました。

(3) JR東日本エネルギー開発株式会社「(仮称)栗子山風力発電事業」

<準備書、補足説明資料、意見の概要と事業者の見解、山形県知事意見、福島県知事意見、環境大臣意見の概要説明>

○顧問 それでは3件目、(仮称)栗子山風力発電事業、環境影響評価準備書の審査になります。準備書本体、補足説明資料、意見の概要と事業者の見解、知事意見、環境大臣意見出ております。環境大臣意見の方では、特にイヌワシとか植生自然度の改変等に言及されておりますので、この辺りで御専門の先生方の御意見をいただければと思います。

それでは、御質問、御意見ございましたら挙手ボタンを押してお知らせください。よろしく申し上げます。

動物関係の先生、お願いいたします。

○顧問 コメントさせていただきます。今、先生から環境大臣意見についての紹介がありまして、2点、植生の方と、もう一点はイヌワシということでコメントが出ていると。私もこの審査はイヌワシが一つの大きなポイントになると考えています。

準備書の808ページと809ページを見ていただきたいのですが、808ページの方はこの対象事業実施区域の近傍だと言われているところの営巣地の情報、そしてその周辺の飛翔軌跡が描かれていて、809ページの方は対象事業実施区域、そしてその周辺の飛翔軌跡が描かれていて、この準備書を見ていく中で、私は最初、これは何が起きているのかよく分からなかったのです。要は、営巣地周辺の飛翔軌跡が非常に少なく、対象事業実施区域の周辺の飛翔軌跡がやたら多い。しかも、よくよく809ページの軌跡のパターンを見ていくと、2月3月とかに餌運びとかの軌跡もあって、なおかつ、それがみんな同じ方向、矢印のベクトルなのです。

一体これほどどのように理解すればいいか私はよく分からなかった。いろんなところに問合せをして、この状況を自分なりに理解しようと思いました。そうすると、実際これはヤブーニュースなんかにも出ていて、NPOの方から知事に対しての意見出しがあったり、そういうところもあったのですけれども、要は対象事業実施区域の周辺に、この808ページで紹介されている営巣地とは違うペアが営巣している可能性が高い。そしてその確度かなり高いということが見えてきて、この準備書はそのような近接して営巣している可能性の高いイヌワシの情報が全く考慮されないで書かれている準備書で、私は見る価値がないと考えます。

これに関して山形県知事と福島県知事、あと環境大臣、書かれていて、山形県知事の知事意見が非常に詳細に書かれているので、私は自分なりのコメントはそれをベースにして聞きたいのですけれども、県知事の2ページ目ですかね。「しかし」のところが書かれている。ここ、すごい重要で、要は、「準備書及び追加調査の事業実施区域近傍における餌運び及び餌持ち飛行後の長時間の止まり行動」とか、いわゆる繁殖特有の行動というものが対象事業実施区域周辺で見られている。

要は、10km離れた営巣地のペアのほかにこの事業実施区域近傍でイヌワシが営巣している可能性が非常に高いということですね。その上で、そういうことを前提にしないで書かれている準備書に関しては、不確実性が非常に高いと評価されて書かれていて、この知事意見の方では、イヌワシの生息及び生息環境の保全の見地から事業の取消しも含めて抜本的な事業計画の見直しを行うことと書かれているように、私もそう思います。

私は、そのための事業のオファーの見直しの前に、まず営巣地が本当にこの近傍にあるのかどうかといったところを絶対確認しなければいけないと思うのですね。そういう意味で、この準備書の出てくるタイミングが早過ぎるというか、準備書をこの段階で出してはいけないと私は思っています。そういう意味では、本当は取り下げるべきだったと思いますけれども、いろんなところを確認したら、事業者さんは準備書を出していく方向で動いているということだったので、それはそれで今日の日を迎えているのだと思いますが、そういう形で出てきたものに対しては、私は、この準備書の内容は審査に値しないと考えます。

山形県知事の4ページ目に書かれているところで、まず、dのところですね。「地元観察者との共同観察」というのをぜひしていただきたい。コンサルさんも頑張っちはいらっしやると思うのですけれども、まずこの状況を理解している地元の観察者と事業者さんの

方で共同観察の体制を組んでください。聞いたところによると、去年はブナが凶作で、イヌワシの繁殖というのが今年行わないような形で、余り飛翔してなかったようですが、今年はどうもブナが豊作になるようなので、来年はイヌワシは繁殖するのではないかということなので、この秋冬、イヌワシの調査を実施していただいて、ぜひ巣をしっかりと見つけていただきたいというお願いです。

その上で、その情報を踏まえて、5ページ目、評価書の作成に関して。イヌワシに関する評価書の作成に当たっては、この当該地の知見を有する者を含む複数名の専門家の助言を受けながら、しっかりとみんなが納得する形で調査、リスク評価、それから保全措置について記述していただいたものをぜひ出していただきたい。事業者だけでまとめたものを出すのではなくて、ちゃんと地元で観察している人たちの同意を得て、その情報共有のもとに評価書を出していただきたいと考えます。

そういう意味で、本来これは準備書の段階でやるべきことが評価書に後回しになってしまったので、それは私はあってはならないと。本来はこのような状況の中で事業者さんは準備書を見送るべきだったと私は思うのですけれども、出てしまったものは仕方ないので、あとは評価書の段階までに慎重に対応していただきたいというお願いです。

今度、福島県知事意見の方を見ていただきたいのですが、3ページ目の動植物・生態系に関して、イの2行目のところに、「また、移動経路の遮断・阻害については迂回可能な空間は確保されていることから影響は小さいとしている」。でも、よくよくデータを見ていくと、準備書の方のページ番号は記さないですけれども、一方で調査の結果では、ちょっと読ませていただくと、対象事業実施区域周辺において、年間を通してイヌワシの採餌飛翔が確認されていることとともに、また、餌資源であるノウサギとかヤマドリの確認地点が尾根筋、いわゆる対象事業実施区域にずうっと広がっているのです。風車建てるところに。ここは、植生図の方を見ていくと、低木群落とか、なだれ地自然群落があつて、それはイヌワシの採餌環境、いわゆる採餌空間になっている可能性が非常に高い。調査地域内でも同様の群落が本事業地中心に集中して分布しているので、その上の方に書かれている「移動経路の遮断・阻害について迂回可能な空間は確保され」と。違いますよ。そこが採餌空間になっている可能性があるのだから、迂回なんかできっこない。それをこういう形で影響は小さいと書いて評価していること自体が、そもそもデータをしっかりと読み取っていないと私は判断します。

そういった意味では、この準備書は評価するに値しないというのが私の帰結であつて、

大臣意見、山形県知事、福島県知事、全体通して見ていただければ分かるように、いま一度評価書審査に向けてはしっかりと現地調査をこの秋冬に行っていただいた上で、イヌワシの巣があるのかなのか、しっかりそれを確認していただいた上で、改めてこの事業の適正というものを判断すべきだということが私の意見になります。以上です。

○顧問 ありがとうございます。私も事前にいろいろ御質問させていただいて、行動圏解析等の結果がないので、このままデータだけを読み取ると、ここに集中していると書いてありますけれども、高頻度利用域になってしまいますよね。周辺のデータが全然ないので、そういう意味ではちょっと考察ができない状況なので、事業者さんは追加調査でということをお答えいただいていますけれども、動物関係の先生、手挙げられていますか。

○顧問 いえ、そういうことで、追加調査で改めて判断すべきだと思うところです。

○顧問 ありがとうございます。そうですね。追加調査の結果がないと、今の段階で、影響の大きさ、餌場として主要な餌場になっているのか、それとも行動圏の一部であるのかというのが全く分からない状況なので、そもそも大きいとか小さいとかが言えないのではないかというような気がしております。知事意見、大臣意見等でも同じような意見が出ているという状況にあります。

準備書出されたので、評価書に向けてということにはなってしまうと思うのですが、まずは事業者さんに、これからどのように対応されるか、まずイヌワシについてお聞きしておきたいと思います。今の動物関係の先生のコメントも踏まえて御回答いただけますでしょうか。

○事業者 JR東日本エネルギー開発です。

御意見ありがとうございます。まず、準備書を届け出た経緯について、準備書、審査する価値はないというような御意見をいただきましたけれども、ちょっと経緯の方について少し補足させていただければと思います。

まず、準備書、先ほどのページ番号、808ページと809ページというところの調査結果についてなのですが、こちらは2020年から2022年の調査結果を準備書の方にまとめておりまして、調査に当たっては、調査期間中もですが、複数名の有識者の方にいろいろ御相談をしたり確認をいただきながら整理しておりました。実際、2023年の8月に準備書を届け出たのですが、その届出に当たっても有識者の方々に御確認いただいて、アドバイスいただきながら届け出たところなのですが、こちら、準備書にも書いてあるのですが、2023年の4月にある有識者の方にヒアリングを行ったところ、

事業地の近傍周辺で、まずそもそも2023年の4月より前は、基本的にはこのペアがこの辺にいるというような情報はなくて、その2023年の4月に有識者の方にヒアリングを行ったところ、もしかしたらこの事業地の近傍で繁殖の可能性があるかもしれないという情報をいただきまして、もし繁殖しているようであれば、今後モニタリング調査等を行った方がいいよねというアドバイスをいただきまして、弊社では2023年の7月から追加の調査を行っております、そちらについては今も継続しております。先ほど申し上げたとおり、まず準備書はそのような経緯で届けられております。

あともう一点、今現状、知事意見であるとかいうところで、営巣地がこの近傍にある蓋然性が高いというようなお話をいただいておりますが、その情報は弊社の方でも状況は知っておるのですけれども、一旦弊社の追加調査の結果、準備書の追加調査の結果、こちらを踏まえても、明確な繁殖兆候というのが現状つかめていない状態であり、そのままその結果をまとめております。

一方で、県独自の調査というものもお話にありましたけれども、それをもとに知事意見等も話されていると理解しております。弊社の方も、山形県独自の調査の結果というのを開示というのをお願いしたのですけれども、実際開示はしてもらえず、その営巣の可能性のあるデータを開示してもらっていないところでもありますので、その辺の、事業側としては、近傍というのがどこなのかということも知りたいところなのですけれども、その情報がつかめてないところでもあります。

ただ、今いただいた御意見で、この営巣地を見つけることがまず第一だというのは弊社側もそのとおりで思っております、はっきりさせないといけないということはまず第一には考えております。

あともう一点いただいた地元観察者との共同観察というところで、こちらも、現在弊社の方で地元の有識者の方と打合せをしながら、どのようにしていこうかというのは協議をしているところがございますので、こちらについては共同調査を行って、地元の観察者、地元の有識者複数名含めて、その状況を報告しながら、お互いに透明性であるとか客観性のある調査結果、合同調査というのを実現していきたいと考えております。

ですので、評価書に向けては、まずは関係者の同意を得ながら評価書をまとめるようにはしていきたいと考えております。

○顧問 動物関係の先生、お願いいたします。

○顧問 説明どうもありがとうございます。評価書が出てくるときに、ある一部の人が

ある情報を持っていて、ほかの人は持っていないとか、そのような情報の共有化がまだ進んでいないという形で評価書を出すのはぜひやめていただきたいと思うのです。要は、評価書が出てくるときには、イヌワシの営巢の蓋然性も含めて十分みんなで情報が共有されて、この事業が適切なのかどうかということがしっかりと判断できるような形で評価書が出てくる、その辺の情報の共有、それから合意が取れるまでは評価書は出すべきではないと私は思います。

そうでないと、この顧問会が開催されて、そこで判断するときに、偏ったデータで、要は見えていない情報がありながら偏った情報で判断していくというようなことは、私たちはできないと思うのです。そういった意味では、後出しでないですけれども、ほかの情報が出てくるような状況の可能性が少しでもあるようであれば評価書の提出は控えていただいて、そういったところは、すごい透明性が高まって、ジャッジできるという状況になりましたら評価書を準備する、作成して出していくという手続にしていきたいというのがお願いになります。以上です。

○顧問 動物関係の先生、ありがとうございます。

私からもちょっとコメントさせていただきますと、もちろん営巢地をできるだけ可能な限り確定させるということと行動圏を把握するということは非常に重要なことだと思うのですが、私としては、ここの対象事業実施区域に低木林等、草原等、イヌワシの採餌環境として好まれるような環境もありますので、そういったところが行動圏の中で果たして主要な餌場なのかどうなのか、マージナルなところなのかどうなのか、その辺りが分からないと事業をこのまま進めていいのかどうかというのも判断できないのではないかと思います。

逆に、かなり主要な餌場に近いということが分かってしまった場合には、ではどう保全措置として対応されるのか、この辺りも少し評価書に向けて考えておかないと、何かちょっとうまく説明できなくて、影響が低減できるという表現をされても、なかなか評価書として受け付けられないのではないかと思いますので、その辺りの、調査ももちろん重要ですが、イヌワシに対する環境保全措置をどのように取っていくか、この辺りの戦略も十分考えて、評価書の方の作成を御検討いただきたいと思っております。事業者さん、よろしいでしょうか。

○事業者 JR東日本エネルギー開発です。

御意見ありがとうございます。承知いたしました。弊社の方も、まずは関係者、関係各

所の、調査結果に関しては共通認識、あとは合意を取ってというのは、そこがなければ成り立たないものだと思っておりますので、そこは調査の過程でも、有識者の方、関係する方々に適宜報告をしながら進めていきたいと思っております。

併せて、利用状況ですとか行動圏の解析というのもしっかり整理して、評価書に向けて皆様の御理解を得られるように準備していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○顧問 よろしく願いいたします。

植生についてはどうでしょうか。植物関係の先生から何かコメントございませんか。

○顧問 植物・植生なのですけれども、いろいろありますので、まず、準備書の方の1,037ページ辺り、お願いできますか。

このところに、準備書に当たって植生調査された植分が書かれているのですけれども、その結果、群落区分されたその名称が書かれています。これはたくさんやっていただいて非常に結構なのですけれども、ただ、この調査票の記入の仕方に関しては補足説明資料の方で私コメントさせていただいたのですけれども、ちょっとおかしなところがあるので、そこは修正といいますか、終わってしまったのでどうやって修正するか難しいところもあるかと思いますが、ちょっとおかしなところがあったということですね。

それから、また再確認しましたら、植生調査票の方もまだありまして、特に重要な情報ですね。標高が入っていない、それから出現数が入っていないということで、調査票にそれが入っていないので、それをもとにして起こした群落組成表ですね。これにも両方の標高、出現種数が抜けているということで、標高、出現種数が抜けているデータというのはちょっと使えませんので、これも修正といいますか、群落組成表の書き方についてもちょっとコメントいたしましたので、そのような形で、今の組成表だということちょっと見られませんので、どうなっているか全く分からない組成表ですので、これはほかの論文とか、ほかの報告書ですとか、そういったものを十分に参考していただいて、見られるようなものにしていただきたいなと思います。直そうかなと思ったのですけれども、大変なので、やめました。ぜひやり直しをしていただきたいなと思っていますぐらいです。

それから、ここに映っています10.1.8-6の表なのですけれども、次の次のページにはこれの説明があるのですけれども、このところでそれぞれの群落の概略が書かれています。植生自然度なんかあるのですけれども、ただ、先ほどの表の中にない群落名があるのですかね。例えば番号4のチシマザサーブナ群団ですとか、次のページになりますかね、アカシ

デーイヌシデ群落とか、それが実際の先ほどの表の方にはないのですけれども、まずここを伺いたいと思いますが、なぜこちらの説明の表では群落名があって、先ほどの調査した植群の一覧表の方ではないものがあるのかということですのでけれども、それをお尋ねしたいのですが、いかがでしょうか。

○事業者 建設環境研究所です。

御意見ありがとうございます。御指摘のあったチシマザサーブナ群団につきましては、1,041ページの現存植生図を見ていただけますと、この調査地域の一番北東側にその当該群団が分布してございます。こちらが一番事業地から遠いということと、あと尾根上を伝ってそこまで行かなければいけないということで、アクセスが非常に悪くて、あとはかなり急峻な地形で滑落の危険もあるということで、安全管理上の問題もあって、こちらではコドラートの設定を断念したということが正直なところでございます。

○顧問 ありがとうございます。それで、チシマザサーブナ群団という名称なのですが、実は、群団ですから、その中に幾つかの群集が入っているということなのですが、なぜそこを群団としたのでしょうか。これは準備書段階ですから、方法書のときの環境省の方の凡例に縛られる必要はないと思うのですが、チシマザサーブナ群団というと、ブナーミズナラ群落ですか、それもそこに入ってくるということになるのですが、その辺の区別の仕方はどうされているのですか。

○事業者 御意見ありがとうございます。こちら、確かに環境省の方のなごりといえますか、そちらをもとにしてございまして、実際に現地の詳細がコドラートとか設定できていないということもあってそういった形にはさせていただいているのですが、先ほどの調査票の修正ですとかも踏まえまして、改めて確認させていただきたいと思います。

○顧問 調査ができなかったのであれば、調査していないのだけれども、こういう群落がありますよという意味で書かれるのは結構なのですが、そうであれば、データはないのだということを書いていただいた方がいいかなと思うのですね。これ、間違いではないかと思ってしまうので。

アカシデーイヌシデ群落も同じことですね。同じような理由によるということによろしいのですか。

○事業者 はい、御意見のとおり、こちらかなり距離があるということと急峻な地形でということで、同様の理由でございます。

○顧問 分かりました。それでは次のページ、先ほどの概要の書いてあった表のページ

にしていただけですか。

1,040ページですね。この地域というのは日本海側に入ってくるということでかなり積雪がある地域なのですね。だから、山はそんなに高くなくても、結構雪の影響でもって、特になだれとかそういう厳しい環境にありますので、一見、低木で二次林的に思われても、実はそうではなくて、それは自然性の高いものであるのが多いかなと思うのですね。

ちょっとこれの前のページから見ていきたいと思うのですけれども、次のページ、すみません。

ここで、例えばなだれ地自然群落というやつと、この下の方に、15番で低木群落というのが、このなだれ地自然群落と低木群落というのはかなり近いものがある、ただの低木群落というのは実はかなり自然性の高いものであるのではないかと考えています。そして、この低木群落と言われるものを植生調査票の方で見ると、いろんなタイプのものが一括してまとめられているということなのですね。そして、その低木群落のところには随分発電機が建てられるような感じかなと思うのですけれども、これはちょっと低過ぎるのではないかと思います。より自然性がかなり高いものです。ですから、8とか、場合によっては9のものがそこに入ってくると私は理解しています。

それから、9番のブナーミズナラ群落ですけれども、これは先生からの御指摘もあったと思いますが、ちょっと評価が低い。植生調査票を見てみると、かなり自然性の高いものがある、これは9でいいのではないかなというものが結構ありますね。胸高直径が45cmというところによっては二次林と捉える場合もあるかもしれないのですけれども、組成的にもまとまってきていて、これはマルバマンサクブナ群集ですね。ブナの自然林と捉えていいものが結構入っている。

そうすると、ここのブナーミズナラ群落とされているものは自然度が9、あるいは8、あるいは本当に二次林的なものは7ということになってきて、この辺のところの評価をもう少しお考えいただければなと思います。特に15番の低木群落はもう少し丁寧に見ただいて、お聞きしたいのは、ブナ林でも、ブナが優占する低木林ってあるのですけれども、多雪地に行きますと、ブナが大きくなれないところがあるのですね。ブナが少し匍匐するような形になって、ブナの5～6mの低木林なのだけれども、それは立派なブナの自然林であるというものが奥羽山脈とか三国山脈辺りから出てくるということがあって、そういったものがこの中に含まれているのではないかなと思うのですけれども、写真とかがないので。それから、私、この場所を自分で調査しているわけではありませんから何とも言え

ないところがあるのですけれども、その辺はいかがでしょう。ブナの低木に関してはどんなものだったのでしょうか、お答えいただけるとありがたいのですが。

○事業者 御意見ありがとうございます。写真も含めまして、現地状況を改めて確認して、そういったところを把握していきたいと考えてございます。

○顧問 そうですね。特に風衝の強いところだと自然林も出てくるといいますので、ササ群落がたしか自然度10になっていたと思うのですね。だから、それと余りにも差が過ぎていてるので、御検討をお願いできればなあと思います。

それから、17番のヨモギメドハギ群落というのがありますが、これは説明で言うと、「ブナクラス域上部～亜高山帯の沢沿い等に成立する高茎の二次草原」とあるのですけれども、これは下の方は、3行目の説明では道路沿いに僅かに分布していたとありますが、確かにヨモギとメドハギだと二次的だと思うのですけれども、この最初の行の「ブナクラス域上部から亜高山帯の沢沿い等に成立する」。これだけ言うとこれは自然性の高茎草原の説明になってしまいますので、本当にこれが二次草原であるのかどうかという、この説明ではちょっと、あれっと思ってしまうところがありますので、そうすると、これがもしも自然草原も含めているということであればやはり植生自然度は上がっているということになりますよね。この辺もちょっと御確認いただけますか。

○事業者 御意見ありがとうございます。すみません。こちら、環境省の方の記載を参考にさせていただいている部分がございますので、改めて確認して。

○顧問 調査された場所のとおりの説明をしていただければいいかなと思いますので、よろしく願いいたします。

それから、重要な種のところではチョウセンゴミシ、1,110ページですけれども、このところで、補足説明資料の方でも指摘させていただいたのですけれども、最初、書き方でよく分からなかったのは、改変区域から50m以内で5地点とあるのですけれども、これはだから、全体として改変区域ではない場所ということが前提とされていると思うのですけれども、いきなり改変区域から50m以内というのがあって、最初、何言っているのだろうと分からなかったところがあるのですけれども、ここで5地点で、5地点のうちの2地点が、ごめんなさい、これのほかに改変区域外が2地点あって、そこに20株あって、それから改変区域から近いところに140株あったということで、延べ7地点の160株と書いてあるのですけれども、それで、改変区域外の方にあるのでそんなに影響がないのだという書き方だったのですけれども、それはやはりおかしくて、改変区域内ではないけれども、生育

地の図を見ると、非常に改変区域、道路沿いにある、ほとんど道路に接しているようなところにある状態のもので、それがそっくり残るわけではないから、20株に対して140株となると、140株の方から、そのうちから失われるものも相当出てくるという可能性もありますので、この書きぶりというのですかね、ここのところは少し検討していただかなくてはいけないかなと思います。

それで、その図が次のページに出ているかなと思いますが、これですね。

改変区域外の方は省略されているということですが、本当に道路に接している部分もありますので、これは確かに外かもしれないけれども、ほとんど内でないかなと思ったりするところです。それから、これが5か所となっているのですけれども、調査したのが春と夏と秋なのですね。それで、例えば秋と夏と、一番下のところなんかは重なっている部分、それから上の方も重なっていますよね。だから、重なっているということは場所的に同じではないかなと思ったのですけれども、この辺はどうなのですか。これは地図だから書き表せないのであって、本当は離れているということではよろしいのでしょうか。

○事業者 はい。御指摘のとおり、こちらについては上から見ている形になりますので、そこは表現し切れないという部分はございます。

○顧問 ただ、気になるのは、春に確認しているのだけれども、その場所の夏秋にはもうなくなっていたということですか。プロットしてないということは。下から2番目の春の丸がありますね。普通、チョウセンゴミシだったら、木本性のツルですので残るのではないかと思うのですけれども、ここまで確認にできなかったということなのですかね、その季節には一応あったということ。

○事業者 そうですね。詳細データは改めて確認させていただくのですけれども、基本的には、全く同じ場所の場合はダブルカウントになってしまう可能性があるので、あえて記録していないと。

○顧問 では消えたわけではないということですね。

○事業者 はい。

○顧問 分かりました。もうちょっとあったような気がするのですけれども、その辺御検討くださいということをお願いします。また思い出したら質問するかもしれませんが、よろしくをお願いします。取りあえず以上です。

○顧問 ありがとうございます。また思い出したら御質問いただければと思います。

植物関係の先生から今いろいろ植生についてコメントいただきました。私も事前に少し

コメント出させていただきましたけれども、例えば、多雪地のブナ林、特に尾根に近いところに行けば積雪の影響がありますので、必ずしも胸高直径とか、あるいは木が割とそろっているということで、二次林のように見えるというだけでは二次林ということにはなりません。こういうなだれ地のところは自然の状態、非常に幹の細い状態でなだれに耐えながら根曲がりをしてブナがそこで生育しているという場所もありますので、二次林と判定される場合には過去の人為の影響とかを適切にいろいろな資料を使って説明していただいて、ここは二次林なのだということを適切に説明されるようお願いいたします。

植物関係の先生、ありました？

○顧問 そうなのですね。それで、できればこの地域の積雪分布を示す図みたいなのがあれば見せていただきたいなと思うのです。それから、各植分、特にブナ林とか低木林等を写した写真があれば見せていただくとありがたいなあと思います。

○顧問 事業者さん、よろしいですか。

○事業者 はい、承知いたしました。

○顧問 今、植物関係の先生の方からは積雪の話が出ましたけれども、ここは非常に重要なところです。環境大臣意見では、自然性の高い群落を避けてくださいという話をされています。それで、今回の準備書に関しては、重要な群落としてかなりの数、幾つか調べていただいて、実際にちゃんと影響予測していただいている。ここは非常にほかの事業に比べてもきちんとされているところではないかなと思います。基本的にアセスの一般的な方法ですので、植物群落についても植生図を使って分布を把握して、オーバーレイをして影響予測するという流れになっておりまして、改変面積がどれぐらいだと、それほど大きくはないけれども、またできればその中で少し最小化を検討すると、通常そういう流れになると思います。

ただ、ここで非常に重要なのは、ここが程度の自然地域であって、尾根部で、尾根部にクロベとか岩角地植生があって、谷筋になだれ地の低木群落が分布しているという状況、これが非常に重要です。植物群落というのは単に地表面の形態にへばりついてそこに植物が生育しているというわけではありませんし、その構成種をただ守ればよいというわけではありません。

例えばなだれ地に生育しているようなヒメヤシャブシとかタニウツギのような種類というのは、道路を伐開すると、先駆性の種ですので法面にも出てきますので、種の保存というのはそれほど難しいことではないと思います。それより重要なのは、こういう地域で、

山岳地で積雪の状況によってなだれが起きるところとそうでないところとでこういう植生のモザイクが生じているという、この現象が非常に重要なので、例えばそれが人為的な伐開によって道路をつくったり風車を建てたり、いろいろ土地の状況を変化させてしまうと、恐らくなだれの状況が変化するのですね。なだれが変化すれば、なだれが大きくなれば周りの大きな木をなぎ倒したりするでしょうし、なだれを止めてしまえば遷移が進んだりということもあると思います。

こういう均衡状態に対してどう対応していくのかというのが本来は非常に環境保全という意味では重要なところで、なかなかアセスではそこまでやっていただけないことが多いのですけれども、やはりこの地域はなだれに応じてこういった植生分布が見られる、この全体に対してどう影響を低減していくかという視点も重要になってくると思いますので、事業者さんの中でなかなかそういった御経験ないとは思いますが、できるだけ積雪とかなだれの状況、そういった植生以外の植生に作用しているような環境の状況のデータも集めていただいて、事業実施に当たってどういう配慮をしていくのかということを少し評価書に向かって御検討していただきたい。そうでないと、なだれの状況も変化させてしまう可能性もありますので、そういったところを十分注意して取りまとめを進めていただければと思います。

事業者さん、何かコメントありましたらお願いいたします。

○事業者 ありがとうございます。今ほどのなだれの件につきましては説明会等でも地元の方の御懸念事項もいただいておりますので、植生との関係については、どこまで評価書で記載できるかはありますけれども、考慮して対応させていただくようにいたします。

○顧問 そうですね。恐らく工事計画の2章のところでも、法切りだけでなく、なだれ防止柵をどうするかとか、そういったところも重要になってくると思いますので、なだれとこういった植生との関係についても少し御検討いただければと思います。よろしくお願いたします。

それではほかに御質問、御意見ございませんでしょうか。

大気質関係の先生、お願いいたします。

○顧問 まず補足説明資料の18番目を出していただけますでしょうか。

これはちょっと言葉だけの問題ですけれども、質問で、準備書の360ページにある地域特性を書いてもらっているところですが、そこのタイトルが「気象の状況」となっていますけれども、これはもともと「大気環境の状況」と書いてあったので、それでいいのでは

ないかということで、方法書の中には、大気環境の状況の中で気象の状況を書いていなかったの、気象の状況を書いてくださいということをコメントしたのですが、ですので、この1番、「気象の状況」というのは「大気環境の状況」でいいのではないかということですが、これはよろしいでしょうか。

○事業者 御意見ありがとうございます。そのとおり修正させていただきます。

○顧問 それから次が、補足説明資料の22番なのですが、騒音の施設の稼働のところで、有効風速を測定するための風況の観測をやるということでしたので、その風況の観測地点は397ページに位置図が載っているのですが、そのどこにあるのでしょうかという質問をしています。

それで御回答の方は、麓で取っているSE-1、SE-2の点については御回答されているのですが、「なお、準備書P528の記載のとおり、残留騒音の状況の表で、この表に示した時期には対象事業実施区域又はその周囲における風況は把握できませんでした」と書いてあります。それで、準備書の528ページを見ていただけますか。

上の方の文章のところ、ここで「対象区域又はその周囲における風況が把握できなかったことから」と書いてあるのですが、どうして把握できなかったのでしょうか。まずその理由を教えてください。

○事業者 こちら、風況観測塔を設置してはおったのですけれども、積雪、着雪等により風況塔の方が折損するというようなことが何回か生じまして、結果として、このタイミングのデータを取得できなかったということになります。

○顧問 すごい雪のところなのですね。それで、その下に、過去の観測からべき指数を用いて求めたと。それで、その過去の対象事業実施区域で観測した時期と同じ時期の米沢地域気象観測所の風速データから、直線回帰を求めたとしてあります。それで、準備書の389ページに戻っていただけますでしょうか。

そこで、2番目の「調査の基本的な手法」の「風況の状況」というところを見ますと、現地調査で、「風力発電施設から発生する騒音等測定マニュアル」による測定を行い、調査結果の整理・解析を行ったと書いてありますけれども、これは結局そのとおりできなかったということではないですか。地元の、例えば遠く離れたところの地域気象観測所の風速データから推定するという手法はこのマニュアルには記載されていないのではないのでしょうか。その辺はどうですか。

○事業者 御指摘のとおりでございます。途中で折損はしておりますけれども、観測デ

ータ、ある程度は捕捉されておりますので、そちらの観測データとその米沢の地域気象観測所のデータとの相関を確認したりとか、そういったところで利用はしております。

○顧問 そのときの相関係数あるいは回帰分布を取ったときの決定係数はどの程度だったですか。

○事業者 すみません。今すぐには出てはきませんが、こちら、環境省さんの方のQAとかそちらの方では作成してお示ししてございますので、その辺りは評価書に掲載することは可能です。

○顧問 通常はもしそうやって騒音測定マニュアルに沿うことは実際にはできなかったら、それはこういう別の手法をやりましたということをごここに記載して、その右側のところにその理由はこうこう、こういうことでしたということを書くべきところなのではないでしょうか。

○事業者 御指摘のとおりかと思えます。申し訳ございません。評価書の段階ではそちらの方をきちんと記載するようにいたします。

○顧問 やはり精度がどれぐらいあったかというのは非常に気になるのですけれども、大体、盆地の底にある風と山の上で吹いている風というのは物すごく違って、だからこそ事業者さんも山の上で風況観測をやるわけですね。この有効風速を測るということは、地元で人家の近くで騒音等を測定しているときの同時性というのは非常に求められるところなので、本当にそんなに精度の高い回帰分析ができていますのかというのは非常に気になる場所なのではと思います。

○事業者 おっしゃるとおりで、距離も違うし地形等も違いますので、そこは当然精度は低くなります。さりながら、こちらの場所ですと最寄りの住居まで2km以上離れているということもあって、風車からの寄与分というものがそもそもかなり小さい値になっております。結果としまして、仮に残留騒音の測定結果も一番厳しい30dB未満ということになったとしても、指針値は、今回のこの離隔を確保しているこの場合ですと、残留騒音が誤差あったとしても必ず指針値は達成するという評価になる、それは確認してございます。

○顧問 分かりました。評価書においてはやったやり方について詳細を書いていただくということと、妥当性評価についてもきちんと記載していただくようお願いいたします。

○事業者 承知いたしました。

○顧問 場合によっては、それではだめだというコメントを出す可能性もあるということをごちょっと留意しておいてください。以上です。

○事業者 ありがとうございます。

○顧問 ありがとうございます。それでは、水質関係の先生、お願いいたします。

○顧問 私の方からは、補足説明資料の8番のところで、工事中管理用道路の長さについてちょっと質問いたしました。これの趣旨は何かというと、本事業も土量というのは非常に多いということで、どこからどのようにそれが来ているのかなというのが少し知りたくて、まず道路から来ている分はどれぐらいなのかということでお聞きしました。

既設林道は0.4kmぐらいで、新設の道路は10km以上あるということで、土量は非常に多くなるというのは1つ裏づけるかなあとは思いました。ただし、それにしても、実は100万 m^3 あります。土量がそれぐらいあって、非常に多い。

準備書の方の62ページをちょっと見ていただきますと、ここに切土・盛土の土量と、それから残土の表がございます。もう少し下でしょうかね。

これで、切土の方は合計として100万 m^3 で、盛土が90万 m^3 で、残土として10万。そして残土を流域外に搬出するという形にはなっているのですけれども、道路の長さが10kmにしても切土の量は多いなということで、それが工事中管理用道路として切土があったというよりは、むしろ盛土の方に土捨て場として盛土用に使われたようなものがどうも多そうだという気がして、例えば準備書の、今のところの18ページを見ていただくと、緑色のところが非常に多く見えるのですが、ここが作業場として使われているところで、これが9号のヤードの下に非常に大きな作業場がある。なおかつ、この場所は作業後も作業用ヤードとして緑化されないで残るというような形になっているみたいで、盛土がかなり多く使われて、なおかつ、残った残土10万 m^3 が場外に搬出されるという形になっているのかなと理解したのですけれども、まずそういう理解でよろしいのでしょうか。そこをまず確認したいのですが。

○事業者 御指摘ありがとうございます。今、御説明いただきました御認識のとおりので事業計画で準備書の方は取りまとめてございます。

○顧問 2点ほど指摘したいのですけれども、1つは、非常に切土が多い。そして土捨て場に近い盛土、作業場としての盛土が多い。実際に作業場として使われるのであればいいのですけれども、土捨て場みたいな形で使われるのであればもう少し土をうまく利用するような線形計画ができないのかなあと思って、土量自身を少し減らす努力をしてほしいなと思いました。

それからあともう一つは、この土量が非常に多いということに関して、補足説明資料の

7番の別の水質関係の先生からの指摘といますか、疑問点でも、管理用ヤードについて質問があります。これもやはり供用後もメンテナンスのために使われるところが非常に多いというようなことかと思いますが、その中の業者さんからの回答の中で、猛禽類の餌となる動物の生物利用を抑制するために極力砂利等を敷設する計画としていますということで、これはたまにこういう御回答を見るのですけれども、それにしても、その部分の面積が数haもある。これは少し大き過ぎるのではないかなあという気がして、もう少し工夫の余地があると思っていますけれども、これについてはいかがでしょうか。

○事業者 ありがとうございます。そうですね。今、御指摘いただきましたとおり、今画面の方に映していただいています18ページの盛土の部分は、道路の取り付けのところ、高標高部につける場合にどうしても谷側の押さえが必要だということで、こちらの方に大きな盛土場をつくっております、こちらの方は環境影響の観点からも縮小を今後考えていくことにしております。

基本的に切土量・盛土量の方は現状でかなり大きな数値になっていまして、こちらの方は一義的に工事費の方にも反映してくることから、今後、可能な限り圧縮する形で土量の方は削減するようにいたします。

2点目の緑化の対象外になっているところにつきましても、多分に造成箇所の緑化しないところが大きくなるような計画になってしまうところは、実はイヌワシの餌場の採餌環境は余り創出しないという観点からそのような回答にしておりますけれども、こちらの方も土量の見直しと改変面積の縮小の対応で何とか緑化しない面積を少なくするような形で今後事業計画の見直しを行いたいと思っておりますので、検討するお時間をいただければと思います。

○顧問 ありがとうございます。土量を少なくするというのは経済的にも効いてくることでしょうか、ぜひ検討していただきたいなと思います。

私の方から以上です。

○顧問 ありがとうございます。

ちょっと私の方から補足ですけれども、緑化のところで、恐らく猛禽類を誘引しないように緑化を行わない場所と、それから、斜面の安定性を図りつつ緑化をして在来植生の回復を図るところといろいろ場所場所によってあると思いますので、その辺り、保全措置という観点からしっかりやっけていただいて、その図面も含めて、緑化、具体的にどうやっていくのか、できればどういった植物を使うのかということも含めて、緑化計画のところも、

現在準備書の35ページに概要は書いてありますけれども、少し環境保全措置を意識して、細かく記載していただければと思います。よろしく願いいたします。

事業者さん、よろしいでしょうか。

○事業者 承知いたしました。よろしく願いいたします。

○顧問 ではほかに御意見、御質問ございませんでしょうか。

それでは、お手が挙がっていないようですので、時間も少し超過しておりますので、これにて3件目の審査の方を終了させていただきたいと思います。いろいろ宿題たくさんあると思いますので、評価書に向けてかなりよく吟味をして検討して進めていただければと思います。

事務局の方にお返しいたします。

○経済産業省 多くの御助言ありがとうございました。

主なコメントとして最後にまとめさせていただきますと、イヌワシにつきまして、事業者さんは今現在、追加調査を継続しておられますけれども、御自身だけで追加調査をまとめるのではなく、地元、関係機関、そして専門家の方々、そして地元の観察をされている方々などと情報を共有した上でまとめていただきたいと思います。また、まとめた結果を踏まえて環境保全措置等を検討して、本事業をどのように進めていくのかを十分検討していただくということかと思えます。

2つ目は植生に関しまして、現状の植生図の植生自然度の区分は改めて見直すことになったかと思えますし、書き方等も修正していただかなければいけない。関係者の皆さんに、評価書に向けての修正内容をお知らせする方法は幾らでもありますので、そういったことも考えながら進めていただきたいと思います。植生自然度の高い植生区分を見直して、その結果を踏まえて、改変は回避又は極力低減していくということかと思えます。

3つ目は、地域特性といいますか、なだれの関係ですね。なだれとか積雪の情報を集め、環境保全措置、特に植生への影響等を検討内容の一つにさせていただきたいと思います。

4つ目は騒音の測定について、マニュアル以外の方法を使っていますので、その妥当性についてしっかりと評価書にしっかり書いてください。それが本当に十分安全側なのかということを顧問の先生方に聞いていきたいと思えます。

5つ目は土量が多いということ。図面等を見るとかなり広い範囲で盛土がなされていることは明らかですし、土量も発生しているので、緑化計画も含めて、今、概要しか書いていませんけれども、環境保全措置として細かく書いてください。山形県、福島県知事意見、

そして環境大臣意見を踏まえて、我々もそれを踏襲して勧告をしていきますので、ぜひ事業者さんも十分に検討していただければと思います。

そのような形で次に進んでいただければということで、よろしいでしょうか。

○顧問　そうですね。知事意見も大臣意見も同じような、幾つか重複した意見がございますので、少し今日の顧問の先生方の意見も含めて取りまとめていただいて勧告にしていたければと思います。よろしく願いいたします。

○経済産業省　そうさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。非常に長時間になりました。今日、3件審査させていただきまして、本当にどうもありがとうございました。